

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	019300072		
法人名	株式会社すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘 グループホーム（菜の花）		
所在地	富良野市字下御料		
自己評価作成日	令和1年10月22日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ごりょうの丘グループホームは、北海道の中心の富良野市にあり、周囲は春になると桜が満開になる朝日ヶ丘公園、富良野スキー場が見渡せる大自然に囲まれ、静かな環境に立地しています。施設の敷地内には、有料老人ホーム・10月から新規オープンしたグループホーム、併設された交流館・託児室・小規模多機能ホームがあり 施設間に中庭と施設内で飼っているウサギの遊び場も設置され夏場は入居者様と託児の子ども達と散歩や日光浴を楽しむことができます。 又、施設裏に野菜畑があり春の種まきから秋の収穫まで、季節を感じられる行事に子どもから入居者様まで生き生きと参加しています。

昨年より、地元の高校生が定期的にボランティアで来訪し、入居者様と中庭の花を定植したり冬季にはドライフラワーを用いて居室の飾り付けを一緒に行うなど一年中通し交流できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ごりょうの丘グループホーム」は富良野市の丘陵地にある2ユニットの事業所である。広々とした敷地内に建っている同法人の有料老人ホームと平成30年に新設したグループホームとは合同で夏祭りを行い、災害時には協力体制もある。当事業所は開設3年が経過している。今年交代した管理者は、事業所での役職の経験を活かしながら昨年の課題に向けて職員とともに真摯に取り組み、ほぼ達成されている。今年度の事業所目標を作成する過程で職員は意見を出し合って作り、目標を意識してケアを行っている。テーマごとに内部研修を行い、記録類も充実している。法人は市の高齢者支援に協力し、その中で子供の見学やボランティアサークルの高校生を受け入れて利用者との交流につながっている。地域交流の面では「ふれあいサロン」に年間を通して参加し、作品作りや食事をして地域の高齢者と顔馴染みになっている。また屋内の「地域交流館」に出かけて認知症カフェに参加している。ケアマネジメントでは利用者の暮らしの習慣や趣味、嗜好の情報を収集して馴染みの関係を可能な限り継続できるよう介護計画を作成している。富良野の各地域のお祭りに、出身の利用者がグループで参加して友人に会い、また趣味仲間や友人との外出を支援している。利用者は散歩や個別の買い物を楽しみ地域に根差して暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族と地域との関わりを持ち、今迄と変わらない生活を支援させて頂く事で理念に取り入れています。また事業所のリネンを来訪者様にも見て頂けるよう入り口に表示をしています。	法人理念「4つの誓い」を基に、今年度の目標を作成する過程で全職員がグループで意見を出し合い作り上げている。職員は目標をよく理解し日々のケアにつなげているが、理念はあまり意識に入っていないように見受けられる。	法人理念を事業所理念として掲げているので、理念と目標の位置づけを明確にし、全職員が理念を意識して共有できるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行なう行事などにお誘いして参加して頂いたり、町内会で行われているふれあいサロンに毎月参加のお誘いを頂く事で参加しております。また、認知症カフェを開いて地域の方々に参加して頂く事で利用者様と地域の方との交流を図っております。	法人夏祭りを中庭で行い、町内会の協力や家族の出店などもあり、近所の人や子供たちも参加している。公立高校のボランティアサークルの生徒がお祭りに協力したり、また中庭の花壇整備やホームの畑の収穫祭で利用者と一緒に作業をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で認知症カフェや研修などを開いて地域の方々へ参加をして頂き、認知症についての理解を呼びかけたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回行なっている自治会長や町内会長、地域の方々にご参加いただき、事業所で行なっている取り組み状況などを報告。そこで頂いた意見を基に、更なるサービス向上へ繋がる様取り組んでおります。	会議に町内会役員のほか、市の担当者、民生委員、2～3名の家族参加を得て、外部評価、防災、身体拘束廃止、研修報告などで意見を交換している。全家族に開催の日時を知らせる会議案内を送っているが議題は記載されていない。	会議案内に主要なテーマを記載して家族に送り、関心のあるテーマで参加につながるよう期待したい。また参加が難しい場合は事前にテーマなどの意見を聞き、会議に家族の意見が反映されるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加して頂き、事業所の取り組みを聴いて頂きながらアドバイスなどを取り入れております。	運営推進会議の際に市の担当者に相談する事が多い。要介護認定更新時には受診の調整で利用者の負担を軽減している。地域交流会館で行われるNPO法人運営の認知症カフェの開催日に、市の担当者も参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び虐待防止委員会を設置し、会議での意見交換などを行う事でマニュアルを作成、全職員がその内容を周知できるように取組んでおります。	事業所内に法人委員会を設置し役職員と一般職員1名の構成で3か月ごとに会議を開催している。会議では事例を取り上げて検討し議事録を作成している。年2回の内部研修では身体拘束禁止行為を読み上げて周知し、職員は理解して拘束をしない方法で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会主導で研修を行うことで、事業所内で虐待が行なわれないようにと意識を向上させることによって虐待防止に努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては識者を呼んで研修を行う事で制度についての理解や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やそのご家族様に解りやすく説明をすることでご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問された方からの意見や要望を取り入れやすくするため、ご意見箱を施設の出入りに設置。投函された要望などを運営に反映出来るようにと会議などで話し合っており取り入れるべきものを取り入れて行けるよう努めている。	来訪時に家族と話し合い、要望は職員間で対応を検討し、詳細な処理簿を作成している。今後は家族意見ファイルの利用者ごとにある記録用紙に、職員の気づきなども簡素な書き方で記録し、家族の些細な思いも共有できるように検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き、その場で職員から運営や業務に関する事を聞く機会を設けている。また出た意見などを皆で話しあって反映出来るようにと努力している。	引き継ぎに時間がかかりすぎるといった意見から、効率的に進めることを話し合い改善に向けている。合同で内部研修も行っている。管理者は個人面談のほかにも個別に意見を聞いている。職員は業務の係りを分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、その評価をもとに個人面談を行っている。また評価の内容によって、各人のキャリアアップ明確化を行う事で職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修を行い、職員一人一人のスキルアップに繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富良野市主催の地域ケア会議に参加することで交流を深め、他の事業所と意見交換を行ってサービス向上に努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、その方の生活リズムなどを把握することで入居後も変わらない生活を行って頂けるように支援を行って信頼関係を築けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とも面談を行って要望や意見などを聴いている。また、その内容をもとにサービスへ繋がるよう努めていき、信頼関係向上へと繋げております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様及びご本人の状態や要望などを聞きながら生活をしていただき、日々の観察を行いながら、その方にあった支援の方法を見極めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が同じ空間で共に過ごすことで信頼関係向上に努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人との関係を失わない様配慮をしつつ、ご家族様の負担を軽減出来るようにサポートを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に添えるよう外出を行っており、状況によってはこちらから声掛けを行って馴染みの場所との関係が途切れないよう支援を行っている。	友人の来訪や、知人と外出している。登山仲間と出かけたり、同窓会に参加する方もいる。家族と理美容室や歯科に行き、職員の同行で好みの化粧品を買うなど馴染みの関係を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係などを配慮しつつ、同じ地元の利用者様と交流を行ったり、共に支え合えたりと皆さんが関わり合いを持てるような環境が出来るよう支援を行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、入院されている方に関してはお見舞いを行ったり、遠方へ移転された方に関しても機会があれば訪問したりと関係性の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	習慣や希望などをご本人やご家族様から聞いていき、これからもより良い生活を送って頂けるよう支援を行っている。	「そのひとらしさ」情報シートに、暮らしの習慣、趣味、嗜好などを記載して課題分析シートとともに6か月ごとに更新している。意向を把握し介護計画に取り入れて可能な限り実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活を続けられるよう、その方の生活歴を確認していき、今後も変わらない生活を続けられるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に関しては介護記録などに記載しており、特変などがあれば看護婦やリーダーに報告している。介護記録や特変時の状態などから、日々の過ごし方の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から得た情報から関係者と話し合い、その話し合いから得た意見などをもとに介護計画の作成を行っている。	6か月ごとに計画を見直し、担当職員のモニタリングをもとにカンファレンスで確認し、利用者・家族の意向を入れて介護計画を作成している。今後は日々の記録に変化なども分かりやすく記入し、次回のモニタリングにつなげる工夫を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員を決めて、記録や日々の生活から得た情報をもとに職員間で情報を共有。共有している情報から介護計画の作成・修正を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画通りではなくとも、その方のニーズに合わせた対応が行なえるようか話し合っている、その内容を実践出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学生のボランティアの力を借りながら、ご本人が日々楽しく生活していけるよう支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の意向を確認しつつ、適切な医療機関の支援を受けられるよう心掛けております。	月1回協力医の定期的な訪問診療を受けている。専門的な他科受診には看護師が同行し結果を家族に伝えている。往診と通院結果の内容を利用者ごとに記録し経過を共有している。	

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、個々の健康管理においては医師から指示を頂けるよう連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を密にし、医療機関との情報交換を行う事で早期退院についての受け入れ態勢が整えられるように努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の指針を説明し、ご本人とご家族様の意向確認を行っている。	利用開始時に、医療行為が継続する場合は対応が難しい事も説明し同意を得ている。主治医の判断で終末期には、家族の意向に沿って看取り対応の文章を個別に作成している。現在は状態が回復し看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を行っている。また、急変時にも対応できるように看護師といつでも連絡を取れる体制を整えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、消防の協力を頂いて意見などを取り入れてマニュアル作成も行なっている。	昼夜間を想定した避難訓練で1回は消防署の立ち会いで実施している。昨年の地震後に事業所内の危険箇所やケア場面の対応を確認し、防寒対策も進めている。今後は地域住民の参加も得て訓練を行う方向で検討している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1度、社内研修として接遇研修を実施し、尊敬の思いを忘れないように心がけ声掛けしている。プライバシー保護個人記録はPCに入力しパスワードで管理。	新人研修や接遇研修で人格の尊重、プライバシーの確保を学んでいる。「ちょっと待ってね」などの言葉はスピーチロックになることを共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	毎日の何気ない会話や、利用者に対して持ち担等を決め、個別で傾聴し本人の望むことをくみ取る働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事については、ペースが速い遅いがあり一人ひとりに合わせて座席に配慮している。趣味等、興味のある行事には本人の希望に合わせて参加できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時には、ご自身で衣服選びをしていたく声掛けを行っている。外出時は、男性であれば髭剃り確認し女性であれば、本人の手持ち範囲でのお化粧で身だしなみを整えている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	春と一緒に植えた野菜の収穫から始まり、料理のリクエストを聞きながら昼食に取り入れている。時には、外食を楽しんだり中庭で焼き肉を楽しむこともある。	朝と夕食は業者委託で昼食は、献立作成して調理している。利用者と一緒に市場に行き食べたい物を選ぶ事もある。利用者は野菜を切る、おやつを作る、下膳する、食器を拭くなどの家事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量と、気温差で食欲不振時には、代替で好みの品を用意し食べていただくよう努めている。水分に関しては、1日の量をチェックし個人の好みに合わせた飲み物の提供をし脱水にならないよう対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の“お口の体操”実施。食後は、自立している方は自身で歯磨き声掛けし介助が必要な方は、毎食対応しケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックシートで、排泄パターンを参考に排泄のタイミングで声掛けし介助。排泄の失敗が少なくなり、尿取りパットの変更するなど自立へ向けて取り組んでいる。	全ての利用者が昼夜ともトイレで排泄している。「最期までトイレで排泄したい」をテーマにフォローアップ研修を実施し、その思いを実現するための取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事内容の工夫として、野菜中心に海藻、豆類、繊維質の多い食物、果物、乳製品等、最低限必要な対策は実施している。運動量の少ない利用者には、毎日の体操も組み入れ自然排便を促している。便秘が続くようであれば、看護師に相談し対応する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、一人ひとりに合わせており時間も曜日でも決めていない。気分転換に温泉へ出かける機会も作っている。祭日などのスタッフが少ない時は、職員都合になる場合もある。	複数の職員が勤務している夜8時までには入浴可能であり、各々の希望に応じている。同性介助が原則だが異性介助にならざるを得ない時は、事前に相談している。檜の埋め込み型浴槽で入浴を継続できるよう介助方法を学んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れるように、昼間の関わりを多くするよう心掛けています。入居前からの習慣で就寝する時間が23時を過ぎる利用者もいる。個別に合わせた睡眠リズムを把握し不眠対策に応じています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての一覧表があり、薬の用途や副作用が確認できるようになっている。通院で薬の変更があったときには、通院報告書で確認し職員間で引き継ぎし周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせ、できることを見極め支援している。各利用者に持ち担の職員が、聞き取りをするなどし計画を立て外食や、外出支援を行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、中庭の東屋で日光浴をしたり季節に応じて、お花見・町のお祭り・へそ祭り・紅葉見学等、本人の希望に合わせた外出とご家族への理解のもと実施している。	夏季は、眼下に広がる市街地、背後の山並みを眺めながら敷地内を散歩している。東屋で一休みしながら兎やセラピードッグが遊ぶ「放牧スペース」も楽しみの一つになっている。冬季は、家族や友人の協力を得てスキーに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自販機や売店で買い物をする利用者や、町まで出向きスーパーで買い物をされる利用者には、付き添いし、できるところまで見守り支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話をもっている利用者もあり、連絡手段の規制はなく、ご家族へ連絡を取りたい方にも柔軟に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間には、季節に応じた花や飾りの工夫をし、温度・湿度が計れる温度計を設置し同じ気温設定をしている。リビングから見えない空間にも、TV設置しゆったりと休めるようになっている。	木目調の茶色をベースにした落ち着いた共用空間である。トイレ、洗面所は他者の視界に入らない位置に設置されプライバシーを配慮している。廊下の書棚には、雑誌や文庫本があり自由に手にすることができる。1階ユニットの土間のまきストーブは、冬季に使用され心身ともに温もりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは、別のTVスペースがありいつも好んで過ごす利用者がいる。食事のテーブルセッティングでは、幾度かの席替えで工夫しながら落ち着いた雰囲気でも過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や寝具を用いてもらい、本人が心地よく過ごせる空間作りをしている。壁には、ご家族の写真や、自身の輝いていたところの写真を飾り、面会者と会話のなかで思い出話にも活かされている。	使い込まれた筆筒やテーブルなどが置かれ壁面には、カレンダーや外出時の写真などが貼られている。備品として物干しざおが設置されているので、自ら衣類の管理ができる。原因疾患に応じて家族と相談しながら環境整備をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞が届くと併設している交流館玄関まで、取りに行く 自分の洗濯物を干す・畳む。食後は、下膳をする。 一人一人のできることの継続として身の回りのことから見守り声掛け支援をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	019300072		
法人名	株式会社すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘 グループホーム（イチョウ）		
所在地	富良野市字下御料		
自己評価作成日	令和1年10月22日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ごりょうの丘グループホームは、北海道の中心の富良野市にあり、周囲は春になると桜が満開になる朝日ヶ丘公園、富良野スキー場が見渡せる大自然に囲まれ、静かな環境に立地しています。施設の敷地内には、有料老人ホーム・10月から新規オープンしたグループホーム、併設された交流館・託児室・小規模多機能ホームがあり 施設間に中庭と施設内で飼っているウサギの遊び場も設置され夏場は入居者様と託児の子ども達と散歩や日光浴を楽しむことができます。 又、施設裏に野菜畑があり春の種まきから秋の収穫まで、季節を感じられる行事に子どもから入居者様まで生き生きと参加しています。

昨年より、地元の高校生が定期的にボランティアで来訪し、入居者様と中庭の花を定植したり冬季にはドライフラワーを用いて居室の飾り付けを一緒に行うなど一年中通し交流できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族と地域との関わりを持ち、今迄と変わらない生活を支援させて頂く事で理念に取り入れています。また事業所のリネンを来訪者様にも見て頂けるよう入り口に表示をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行なう行事などにお誘いして参加して頂いたり、町内会で行われているふれあいサロンに毎月参加のお誘いを頂く事で参加をしております。また、認知症カフェを開いて地域の方々に参加して頂く事で利用者様と地域の方との交流を図っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で認知症カフェや研修などを開いて地域の方々へ参加をして頂き、認知症についての理解を呼びかけたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回行なっている自治会長や町内会長、地域の方々にご参加いただき、事業所で行なっている取り組み状況などを報告。そこで頂いた意見を基に、更なるサービス向上へ繋がる様取り組んでおります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加して頂き、事業所の取り組みを聴いて頂きながらアドバイスなどを取り入れております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び虐待防止委員会を設置し、会議での意見交換などを行う事でマニュアルを作成、全職員がその内容を周知できるように取組んでおります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会主導で研修を行うことで、事業所内で虐待が行なわれないようにと意識を向上させることによって虐待防止に努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては識者を呼んで研修を行う事で制度についての理解や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やそのご家族様に解りやすく説明をすることでご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問された方からの意見や要望を取り入れやすくするため、ご意見箱を施設の出入り口に設置。投函された要望などを運営に反映出来るようにと会議などで話し合っており取り入れるべきものを取り入れて行けるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き、その場で職員から運営や業務に関する事を聞く機会を設けている。また出た意見などを皆で話しあって反映出来るようにと努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、その評価をもとに個人面談を行っている。また評価の内容によって、各人のキャリアアップ明確化を行う事で職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修を行い、職員一人一人のスキルアップに繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富良野市主催の地域ケア会議に参加することで交流を深め、他の事業所と意見交換を行ってサービス向上に努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、その方の生活リズムなどを把握することで入居後も変わらない生活を行って頂けるように支援を行って信頼関係を築けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とも面談を行って要望や意見などを聴いている。また、その内容をもとにサービスへ繋がるよう努めていき、信頼関係向上へと繋げております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様及びご本人の状態や要望などを聞きながら生活をしていただき、日々の観察を行いながら、その方にあった支援の方法を見極めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が同じ空間で共に過ごすことで信頼関係向上に努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人との関係を失わない様配慮をしつつ、ご家族様の負担を軽減出来るようにサポートを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に添えるよう外出を行っており、状況によってはこちらから声掛けを行って馴染みの場所との関係が途切れないよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係などを配慮しつつ、同じ地元の利用者様と交流を行ったり、共に支え合えたりと皆さんが関わり合いを持てるような環境が出来よう支援を行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、入院されている方に関してはお見舞いを行ったり、遠方へ移転された方に関しても機会があれば訪問したりと関係性の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	習慣や希望などをご本人やご家族様から聞いていき、これからもより良い生活を送って頂けるよう支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活を続けられるよう、その方の生活歴を確認していき、今後も変わらない生活を続けられるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に関しては介護記録などに記載しており、特変などがあれば看護婦やリーダーに報告している。介護記録や特変時の状態などから、日々の過ごし方の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から得た情報から関係者と話し合い、その話し合いから得た意見などをもとに介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員を決めて、記録や日々の生活から得た情報をもとに職員間で情報を共有。共有している情報から介護計画の作成・修正を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画通りではなくとも、その方のニーズに合わせた対応が行なえるようか話し合っている、その内容を実践出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学生のボランティアの力を借りながら、ご本人が日々楽しく生活していけるよう支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の意向を確認しつつ、適切な医療機関の支援を受けられるよう心掛けております。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、個々の健康管理においては医師から指示を頂けるよう連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を密にし、医療機関との情報交換を行う事で早期退院についての受け入れ態勢が整えられるように努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の指針を説明し、ご本人とご家族様の意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を行っている。また、急変時にも対応できるように看護師といつでも連絡を取れる体制を整えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、消防の協力を頂いて意見などを取り入れてマニュアル作成も行なっている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1度、社内研修として接遇研修を実施し、尊敬の思いを忘れないように心がけ声掛けしている。プライバシー保護個人記録はPCに入力しパスワードで管理。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の何気ない会話や、利用者に対して持ち担等を決め、個別で傾聴し本人の望むことをくみ取る働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事については、ペースが速い遅いがあり一人ひとりに合わせて座席に配慮している。趣味等、興味のある行事には本人の希望に合わせて参加できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時には、ご自身で衣服選びをしていたく声掛けを行っている。外出時は、男性であれば髭剃り確認し女性であれば、本人の手持ち範囲でのお化粧で身だしなみを整えている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	春と一緒に植えた野菜の収穫から始まり、料理のリクエストを聞きながら昼食に取り入れている。時には、外食を楽しんだり中庭で焼き肉を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量と、気温差で食欲不振時には、代替で好みの品を用意し食べていただくよう努めている。水分に関しては、1日の量をチェックし個人の好みに合わせた飲み物の提供をし脱水にならないよう対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の“お口の体操”実施。食後は、自立している方は自身で歯磨き声掛けし介助が必要な方は、毎食対応しケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックシートで、排泄パターンを参考に排泄のタイミングで声掛け介助。排泄の失敗が少なくなり、尿取りパットの変更するなど自立へ向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事内容の工夫として、野菜中心に海藻、豆類、繊維質の多い食物、果物、乳製品等、最低限必要な対策は実施している。運動量の少ない利用者には、毎日の体操も組み入れ自然排便を促している。便秘が続くようであれば、看護師に相談し対応する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、一人ひとりに合わせており時間も曜日も決めていない。気分転換に温泉へ出かける機会も作っている。祭日などのスタッフが少ない時は、職員都合になる場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れるように、昼間の関わりを多くするよう心掛けている。入居前からの習慣で就寝する時間が23時を過ぎる利用者もいる。個別に合わせた睡眠リズムを把握し不眠対策に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての一覧表があり、薬の用途や副作用が確認できるようになっている。通院で薬の変更があったときには、通院報告書で確認し職員間で引き継ぎし周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせ、できることを見極め支援している。各利用者に持ち担の職員が、聞き取りをするなどし計画を立て外食や、外出支援を行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、中庭の東屋で日光浴をしたり季節に応じて、お花見・町のお祭り・へそ祭り・紅葉見学等、本人の希望に合わせた外出とご家族への理解のもと実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自販機や売店で買い物をする利用者や、町まで出向きスーパーで買い物をされる利用者には、付き添いし、できるところまで見守り支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話をもっている利用者もあり、連絡手段の規制はなく、ご家族へ連絡を取りたい方にも柔軟に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間には、季節に応じた花や飾りの工夫をし、温度・湿度が計れる温度計を設置し同じ気温設定をしている。リビングから見えない空間にも、TV設置しゆったりと休めるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは、別のTVスペースがありいつも好んで過ごす利用者がいる。食事のテーブルセッティングでは、幾度かの席替えで工夫しながら落ち着いた雰囲気でも過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や寝具を用いてもらい、本人が心地よく過ごせる空間作りをしている。壁には、ご家族の写真や、自身の輝いていたころの写真を飾り、面会者と会話のなかで思い出話にも活かされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞が届くと併設している交流館玄関まで、取りに行く 自分の洗濯物を干す・畳む。食後は、下膳をする。 一人一人のできることの継続として身の回りのことから見守り声掛け支援をしている。		

目標達成計画

事業所名 ごりょうの丘 グループホーム

作成日：令和 1年 11月 29日

市町村受理日：令和 1年 12月 2日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	【理念の共有と実践について】 すまいるふらの本社の理念と事業所目標の混同がスタッフ内で見られている。 理念を言い換えるような近い目標達成計画になっている。	法人理念は管理者・スタッフともに再認識をしながら周知・実践につなげていく 事業所理念は法人理念に沿ったより具体的な目標を考え実践する。	①職員がいつも見える所に理念を掲示して再認識の声掛け周知に努める。 ②みんなで実践できるような具体的な目標を作る。 部署会会議で検討	3か月
2	4	【運営推進会議を活かした取り組み】 会議のご案内に当日話す議題を載せていなかったのが改善策が必要	その月の主要となるテーマを家族にお知らせすることで会議自体に関心を持っていただいたり参加につながる工夫に努める。	①現在参加していただけるような取り組みをしている最中で、実際にその初期段階として運営推進会議の中で家族交流会を開催した。交流を深めご家族のご意見や利用者様、地域のお言葉を聞きながら業務やケアの向上に努める。 ②案内文の発行時にテーマを載せる。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。